

2019年度第2四半期 決算説明会

2019年10月31日
株式会社村田製作所



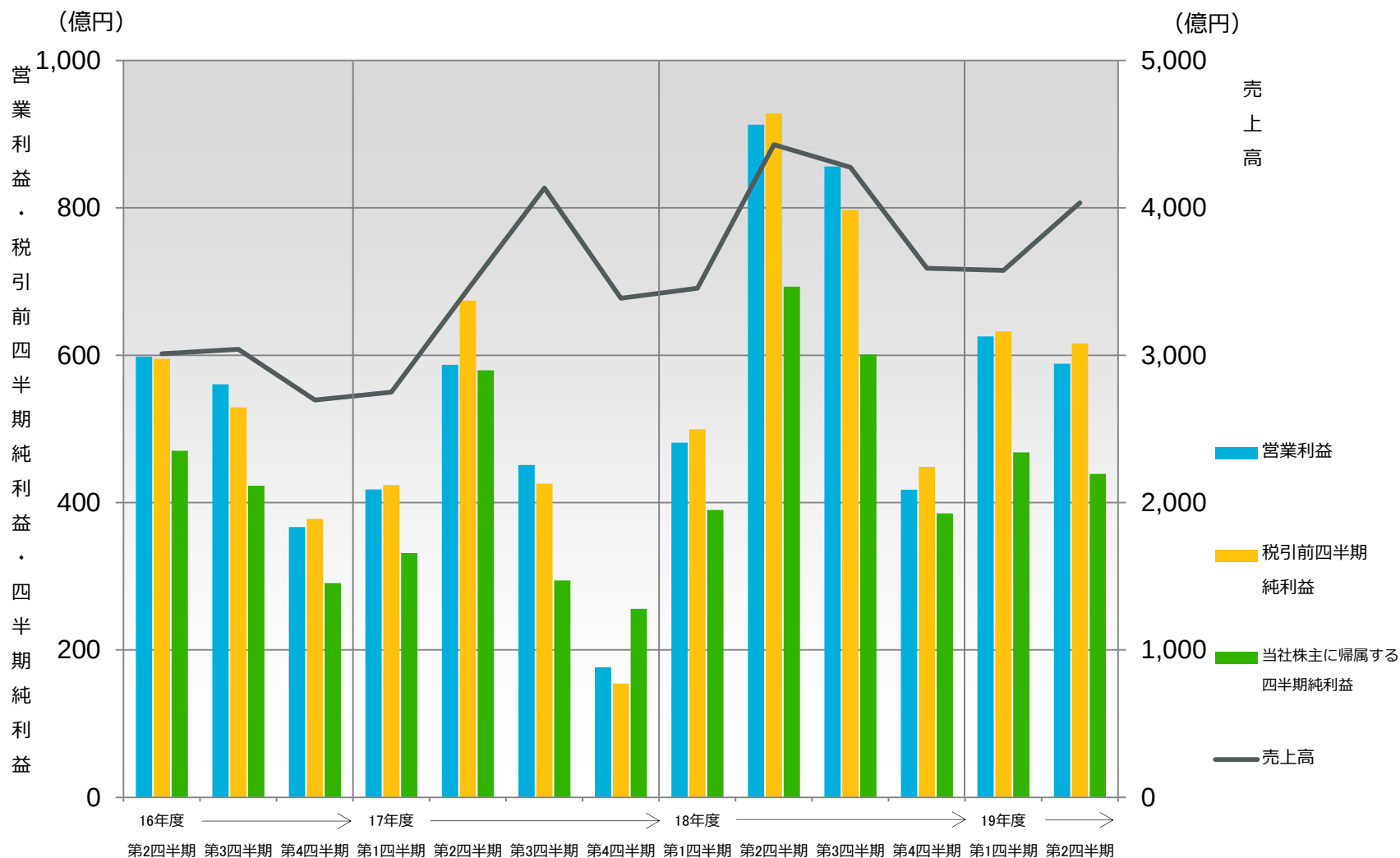
1. 2019年度 第2四半期業績概要

2019年7月～2019年9月
第2四半期連結会計期間

- 当第2四半期の売上高は、代理店向けで在庫調整の影響が見られコンデンサが減少したものの、スマートフォンの新モデル向けでモジュール、コンデンサ、その他コンポーネントが好調に推移し、前四半期比12.8%の増加。
- 上期の売上高は、自動車や基地局向けでコンデンサが堅調に推移したものの、スマートフォン向けでコンデンサ、表面波フィルタ、リチウムイオン電池が減少したほか、円高の影響もあり前年同期比3.5%の減少。上期計画はおおむね達成。

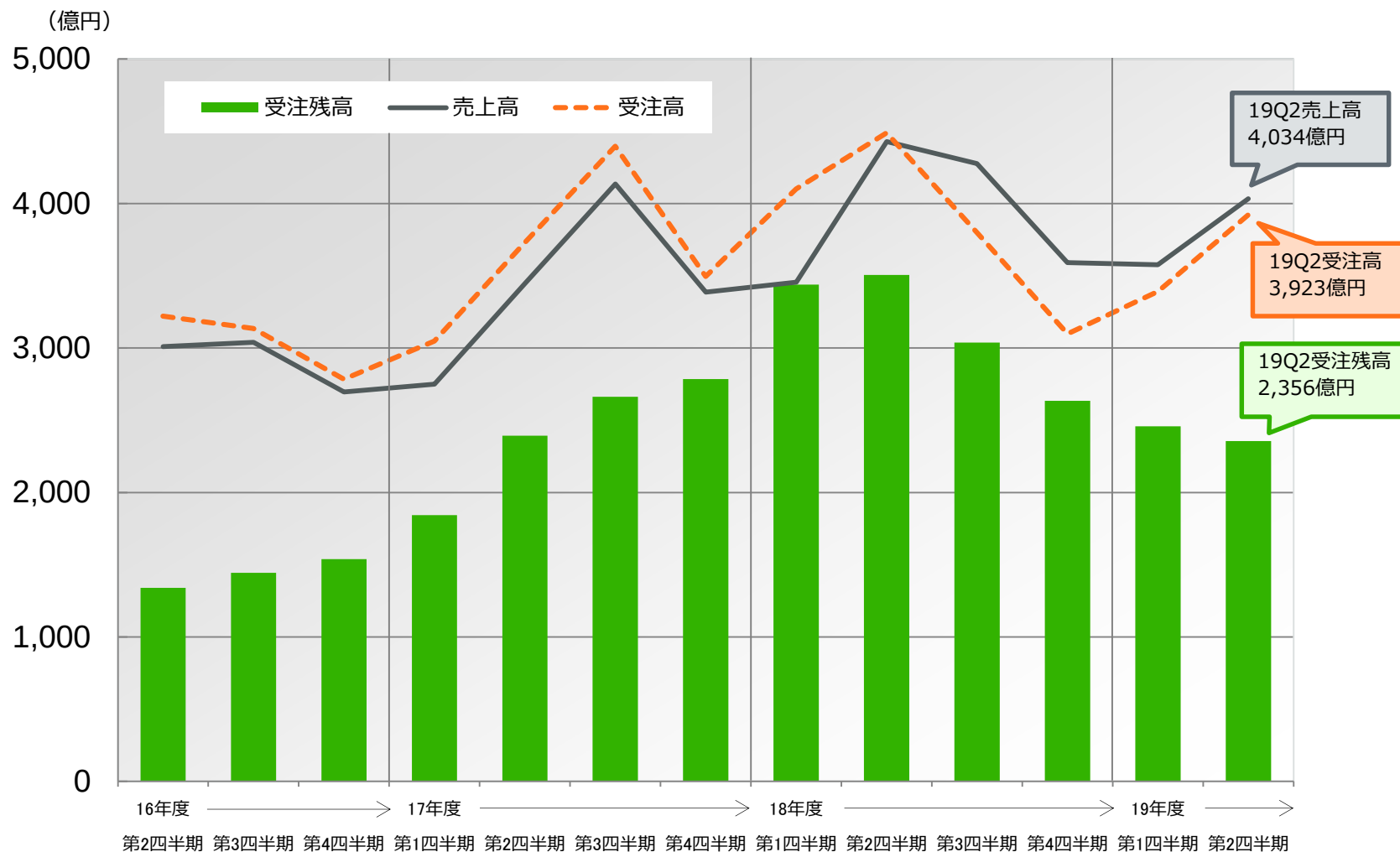
- 上期の営業利益は、モバイル向け電池の収益性低下に伴い減損損失198億円を計上したものの、原価低減の取り組み、品種構成の良化により、上期計画を達成。前年同期比では12.9%の減少、営業利益率は同比1.7ポイント低下の16.0%。
- 流通在庫が適正化しつつあるものの本格的な需要回復が遅れており、部品需要と為替水準の想定を見直し、通期の業績予想を修正。売上高は1兆5,100億円（前回予想比4.4%減）、営業利益は2,300億円（同比4.5%増）を見込む。

業績推移（四半期）

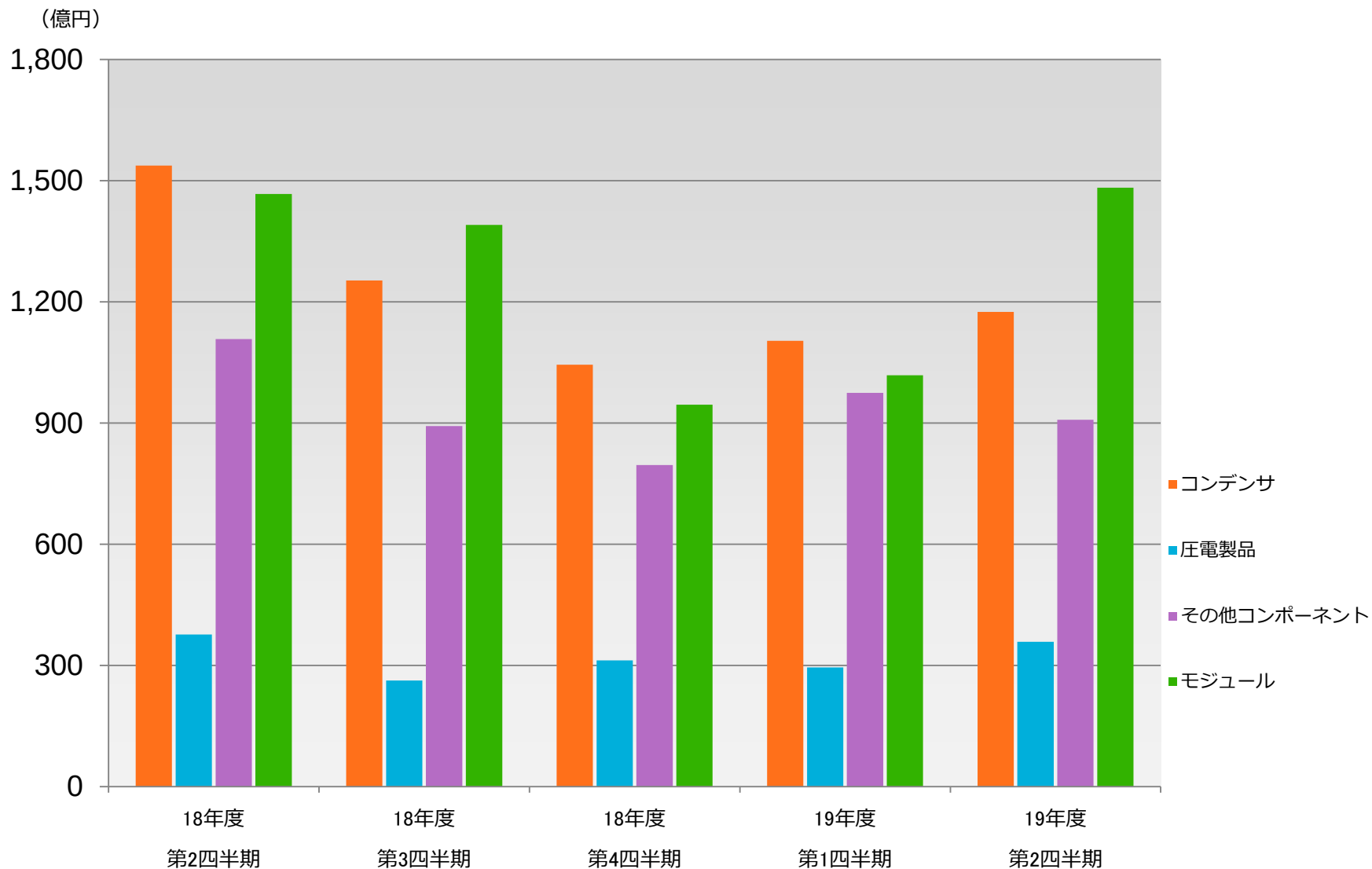


	2018年度		2019年度						直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期		第2四半期		上半期		19Q2／19Q1		19年上期／18年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	7,884	100.0	3,576	100.0	4,034	100.0	7,609	100.0	+458	+12.8	▲275	▲3.5
営業利益	1,394	17.7	626	17.5	588	14.6	1,214	16.0	▲37	▲5.9	▲180	▲12.9
税引前四半期純利益	1,428	18.1	632	17.7	616	15.3	1,248	16.4	▲17	▲2.6	▲180	▲12.6
当社株主に帰属する 四半期純利益	1,083	13.7	468	13.1	439	10.9	907	11.9	▲29	▲6.2	▲176	▲16.2
為替 (円/USD)	110.27		109.90		107.35		108.63					

売上・受注・注残推移（四半期）



製品別受注高推移



製品別売上高

	2018年度		2019年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		19Q2／19Q1		19年上期／18年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	2,737	34.8	1,377	1,378	2,755	36.3	+0	+0.0	+18	+0.7
圧電製品	766	9.7	314	319	633	8.3	+4	+1.4	▲133	▲17.3
その他コンポーネント	2,021	25.7	924	986	1,910	25.2	+63	+6.8	▲111	▲5.5
モジュール	2,346	29.8	952	1,343	2,295	30.2	+390	+41.0	▲51	▲2.2
製品売上高計	7,869	100.0	3,567	4,025	7,593	100.0	+458	+12.8	▲276	▲3.5

製品別売上高概況

[2018年度上半期→2019年度上半期]

コンデンサ (前年同期比+ 0. 7%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 得意先や代理店の在庫調整により、スマートフォン向けなど幅広い用途で需要に弱さが見られたものの、カーエレクトロニクス、基地局向けで堅調に推移
圧電製品 (前年同期比▲ 1 7. 3%)	▲表面波フィルタ スマートフォン向けで数量減少や値下がりにより減少
その他コンポーネント (前年同期比▲ 5. 5%)	▲リチウムイオン二次電池 クリーナー、ウェアラブル機器向けで増加したものの、電動工具、スマートフォン、タブレットP C向けで減少 ▲コネクタ スマートフォン向けで減少
モジュール (前年同期比▲ 2. 2%)	▲電源モジュール O A機器向けで減少 ▲樹脂多層基板／近距離無線通信モジュール ハイエンドスマートフォン向けで減少 ○多層モジュール ハイエンドスマートフォン向けで増加

製品別売上高概況

[2019年度第1四半期→2019年度第2四半期]

コンデンサ (直前四半期比 横這い)	チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 得意先や代理店の在庫調整により家電・その他向けが減少したものの、 ハイエンドスマートフォン向けが増加し、全体として横ばい
圧電製品 (直前四半期比 + 1.4%)	○ アクチュエータ HDD向けで増加 ▲ 表面波フィルタ スマートフォン向けで減少
その他コンポーネント (直前四半期比 + 6.8%)	○ コイル ハイエンドスマートフォン向けで増加 ○ コネクタ ハイエンドスマートフォンやタブレットPC向けで増加 ▲ リチウムイオン二次電池 ラミネートタイプがウェアラブル機器向けで増加したものの、 スマートフォン、タブレットPC、ノートPC向けで減少
モジュール (直前四半期比 + 41.0%)	○ 近距離無線通信モジュール／樹脂多層基板／通信機器用モジュール ハイエンドスマートフォン向けで増加

用途別売上高

	2018年度		2019年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		19Q2／19Q1		19年上期／18年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	370	4.7	169	177	346	4.6	+8	+5.0	▲24	▲6.5
通信	3,928	49.9	1,639	2,121	3,760	49.5	+482	+29.4	▲168	▲4.3
コンピュータ及び関連機器	1,218	15.5	586	606	1,192	15.7	+21	+3.5	▲26	▲2.1
カーエレクトロニクス	1,226	15.6	668	661	1,329	17.5	▲7	▲1.0	+103	+8.4
家電・その他	1,127	14.3	506	460	966	12.7	▲47	▲9.3	▲161	▲14.3
製品売上高計	7,869	100.0	3,567	4,025	7,593	100.0	+458	+12.8	▲276	▲3.5

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

[2018年度上半期→2019年度上半期]

A V (前年同期比▲ 6. 5%)	▲デジタルカメラ向けで近距離無線通信モジュール、リチウムイオン二次電池が減少 ▲セットトップボックス向けでコンデンサが減少
通信 (前年同期比▲ 4. 3%)	▲ハイエンドスマートフォン向けで樹脂多層基板、近距離無線通信モジュールが減少 ▲スマートフォン向けでコンデンサ、表面波フィルタ、リチウムイオン二次電池が減少 ○基地局向けで中圧コンデンサが増加 ○ハイエンドスマートフォン向けで多層モジュールが増加
コンピュータ及び関連機器 (前年同期比▲ 2. 1%)	▲O A 機器向けで電源モジュールが減少 ▲タブレットP C向けでリチウムイオン二次電池が減少 ○タブレットP C向けで近距離無線通信モジュールが増加
カーエレクトロニクス (前年同期比+ 8. 4%)	○電装化の進展により車載用コンデンサが堅調に推移

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

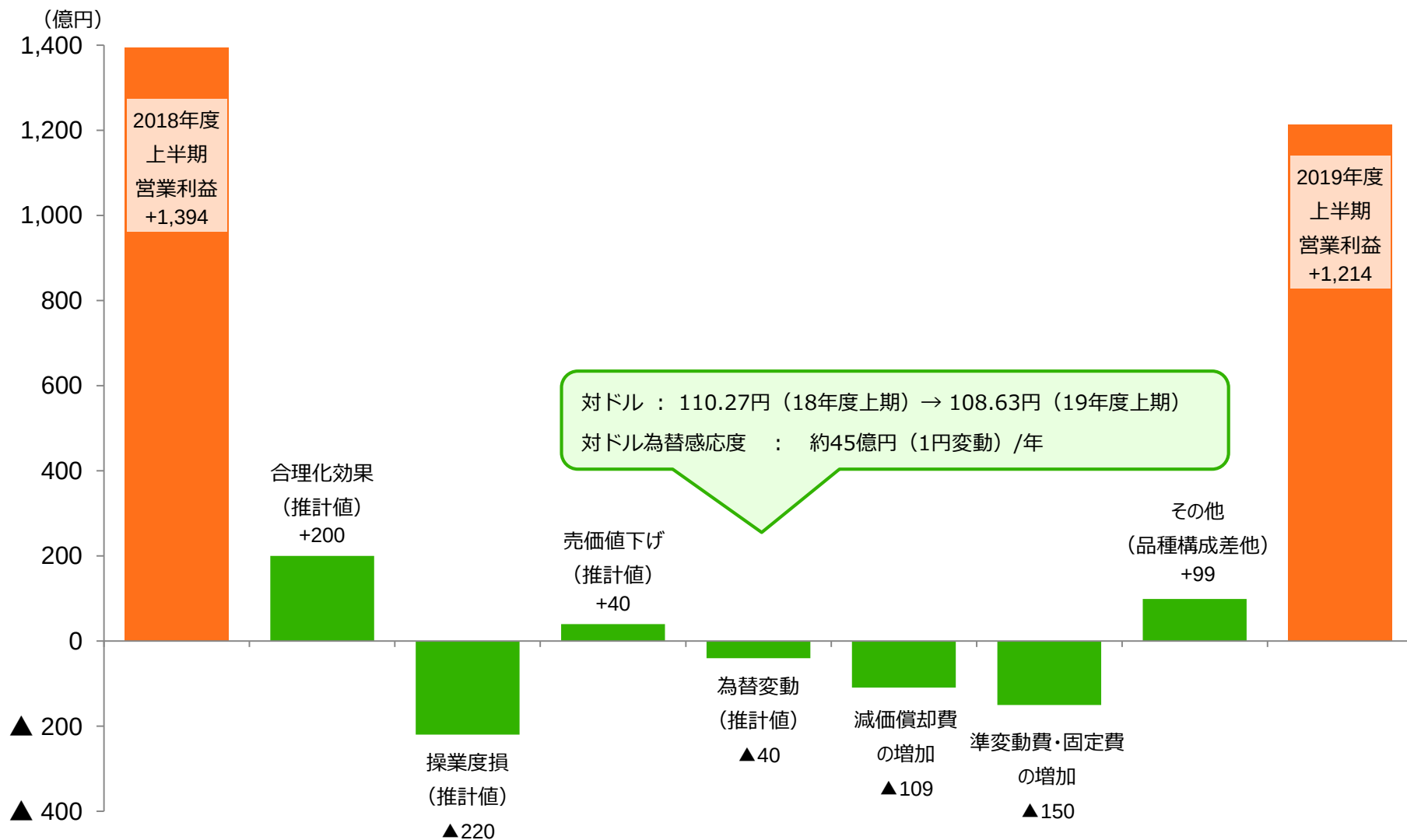
[2019年度第1四半期→2019年度第2四半期]

AV (直前四半期比+ 5. 0%)	○デジタルカメラ向けでリチウムイオン二次電池が増加
通信 (直前四半期比+ 29. 4%)	○ハイエンドスマートフォンの新モデル向けで、近距離無線通信モジュール、樹脂多層基板、多層モジュール、コンデンサ、コイル、コネクタなどが大きく伸長
コンピュータ及び関連機器 (直前四半期比+ 3. 5%)	○HDD向けでアクチュエータやコンデンサが増加 ○タブレットPC向けで近距離無線通信モジュールやコネクタが増加 ▲タブレットPCやノートPC向けでリチウムイオン二次電池が減少
カーエレクトロニクス (直前四半期比▲ 1. 0%)	▲得意先や代理店の在庫調整により車載用コンデンサが減少

(注) 当社推計値に基づいております

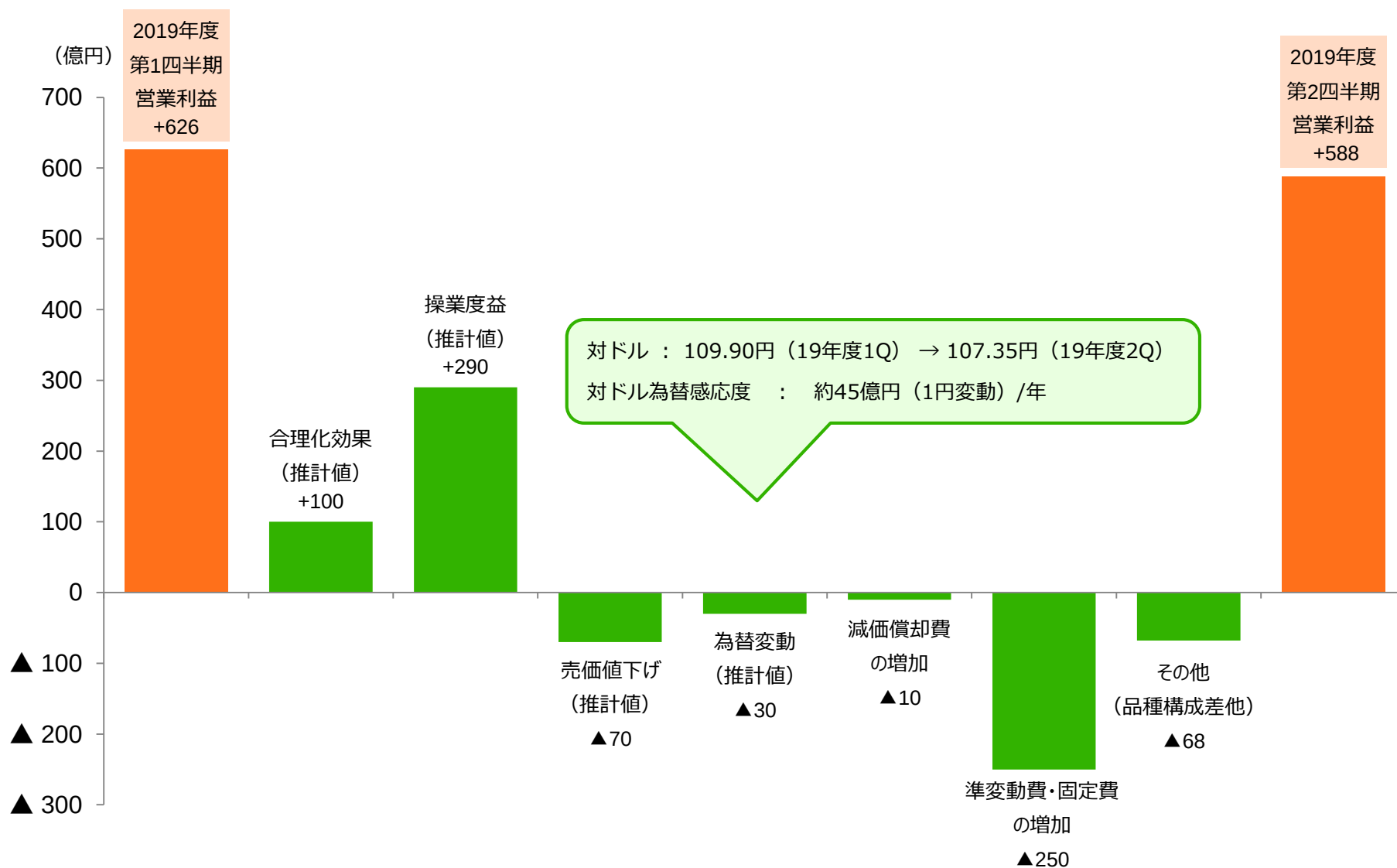
利益変動要因

[2018年度上半期→2019年度上半期]



利益変動要因

[2019年度第1四半期→2019年度第2四半期]



2. 2019年度 業績予想

(2019年4月～2020年3月)

	2018年度	2019年度予想	
スマートフォン	13.6 億台	13.1 億台	▲4% 
PC	4.1 億台	3.9 億台	▲4% 
デスクトップ	1.0 億台	1.0 億台	▲1% 
ノートブック	1.6 億台	1.6 億台	▲2% 
タブレット	1.5 億台	1.4 億台	▲7% 
自動車	9,470 万台	9,000 万台	▲4% 

	2019年度 通期予想 (前年度比)	2019年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	▲4%程度	横這い
圧電製品	▲11%程度	▲4%程度
その他コンポーネント	▲6%程度	▲8%程度
モジュール	横這い	+3%程度
製品売上高計	▲4%	▲2%

	2019年度 通期予想 (前年度比)	2019年度 下期予想 (上期比)
A V	▲4%程度	▲7%程度
通信	▲3%程度	▲5%程度
コンピュータ及び関連機器	▲6%程度	▲3%程度
カーエレクトロニクス	+7%程度	+6%程度
家電・その他	▲16%程度	+4%程度
製品売上高計	▲4%	▲2%

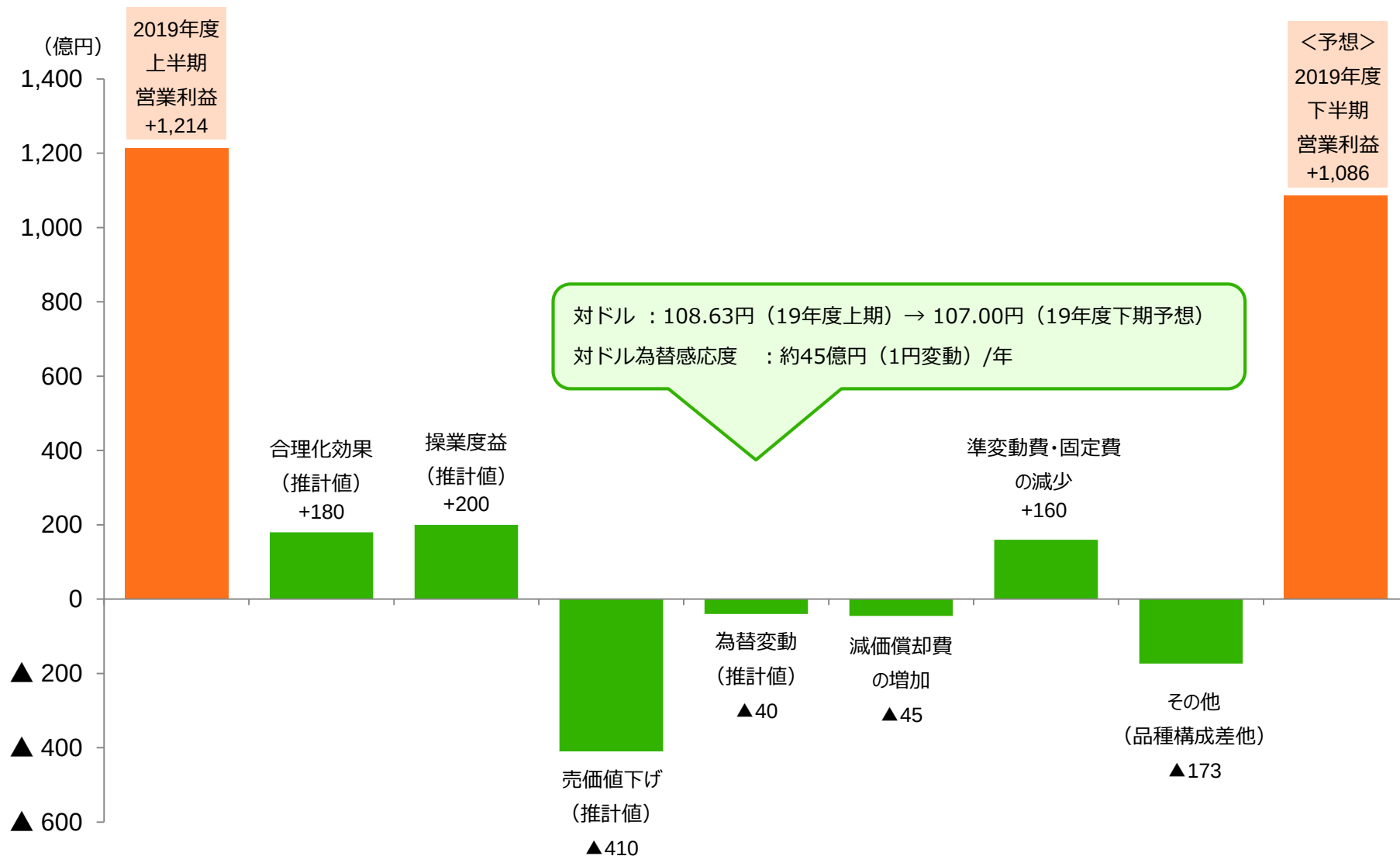
(注) 当社推計値に基づいております

2019年度 業績予想

	前回予想（19年4月）			今回予想					
			2019年度 通期予想					2019年度 通期予想	
	上期予想	下期予想		上期実績		下期予想			
	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	7,650	8,150	15,800	7,609	100.0	7,491	100.0	15,100	100.0
営業利益	1,155	1,045	2,200	1,214	16.0	1,086	14.5	2,300	15.2
税引前当期純利益	1,165	1,055	2,220	1,248	16.4	1,072	14.3	2,320	15.4
当社株主に帰属する 当期純利益	890	810	1,700	907	11.9	793	10.6	1,700	11.3
為替（円/USD）	110.00			108.63		107.00		107.81	

利益変動要因

[2019年度上半期→2019年度下半期予想]



	2019年度 上期実績	2019年度 下期予想	2019年度 通期予想
減価償却費	683 億円	727 億円	1,410 億円
研究開発費	514 億円	506 億円	1,020 億円
設備投資額	1,149 億円	1,851 億円	3,000 億円
為替レート(USD)	108.63 円/USD	107.00 円/USD	
為替レート(EUR)	121.41 円/EUR	120.00 円/EUR	

2019年度（2020年3月期）の配当（予定）

1株当たり年間94円

（中間配当47円／期末配当47円）

※株式分割前に換算すると1株当たり年間282円、
前年度比で実質同額

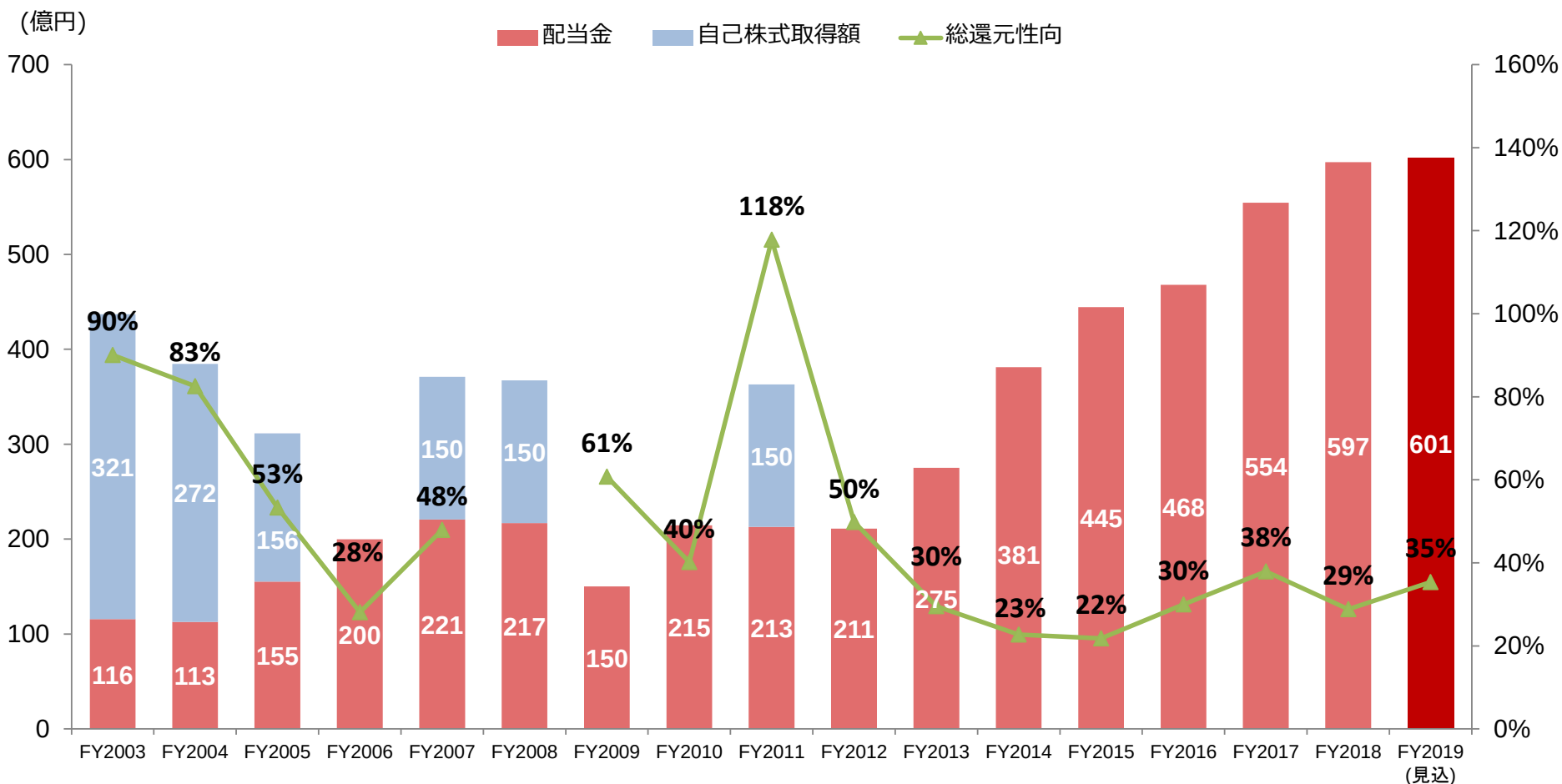
2018年度（2019年3月期）の配当

1株当たり年間280円

（中間配当140円／期末配当140円）

※当 配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

株主還元推移



利益還元策としては、配当による配分を優先的に考え、
1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めます

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようにお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

